

科名 13期ミュージアムへ行こう 4

テーマ名 大原美術館鑑賞会 バスツアー



実施日時 2025年12月9日(火)

I 行程

JR新大阪駅前駐車場 8:15集合 8:30出発
倉敷駅近くのアパホテルで昼食 11:50~12:50
駐車場 → 徒歩で大原美術館 13:00~15:00
美観地区散策 → 駐車場集合 15:20 15:30出発
JR新大阪駅前駐車場 19:00到着 解散



新大阪に集合



昼食「銀ゆば」



美術館前 倉敷川の舟流し

II 大原美術館 鑑賞

1. 大原美術館 本館

(※ 館内は完全に撮影禁止のため、絵はパンフレットのものを使っています。)

大原美術館は、倉敷紡績などの企業を経営する実業家大原孫三郎
(1880~1943) の経済的支援を受けた洋画家の児島虎次郎 (1881~1929)

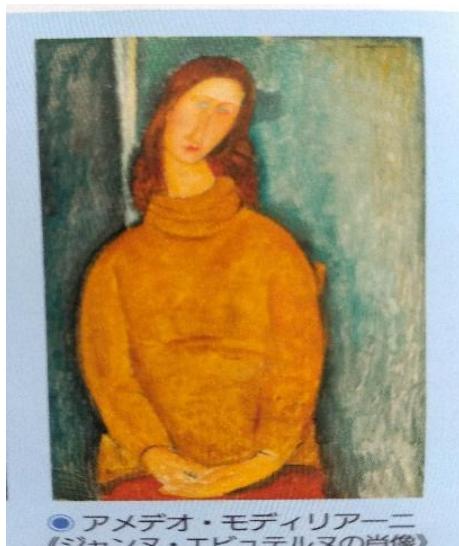
が二度の渡欧を重ね、モネ、マティス、ルノアール、セザンヌ、
ゴーギャンなど多々の西洋絵画を始め、古代エジプト、西アジアの
美術品などの収集に尽力しました。

それらの収集品を収め 1930 年に孫三郎によって創設されたのが大原美術館です。



● エル・グレコ 《受胎告知》

大原美術館が誇るエル・グレコの「受胎告知」は 1922 年にパリの画廊で購入されて以降 100 年以上に渡って所蔵されてきました。今年 7 月より本格的な修復作業が始まり、鮮やかな色彩が蘇っています。



● アメデオ・モディリアーニ
《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》



● クロード・モネ 《睡蓮》

2. 工芸・東洋館

大原美術館の分館である工芸・東洋館では、孫三郎の長男總一郎（1909～1968）の「美術館は生きて成長していくもの」という信念の元、西洋の前衛的な作品や明治以降の日本の洋画、さらには民藝運動を主導した陶芸家、濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉、河合寬次郎など、様々な分野に渡って収集に努めました。また、棟方志功の数々の木版画、芹沢鈴介の染色などにも出会えます。



中庭から見た工芸・東洋館



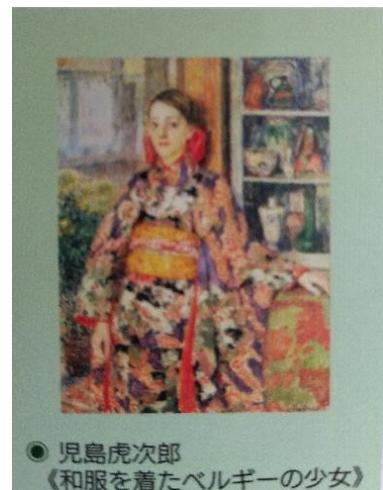
● 棚方志功《魔持妃板画樋》

3. 児島虎次郎記念館

本館を出て美觀地区を少し歩くと、美術作品の収集に尽力した児島虎次郎の記念館があります。自らも画家であった虎次郎の作品や、古代エジプトや西アジアの美術品などが展示されています



旧中国銀行倉敷本町出張所を
リノベーションした記念館の外観



● 児島虎次郎
《和服を着たベルギーの少女》

4. 企画展 「1925：ピカソ・フジタ・ヤクシジ — 結びの100年前」

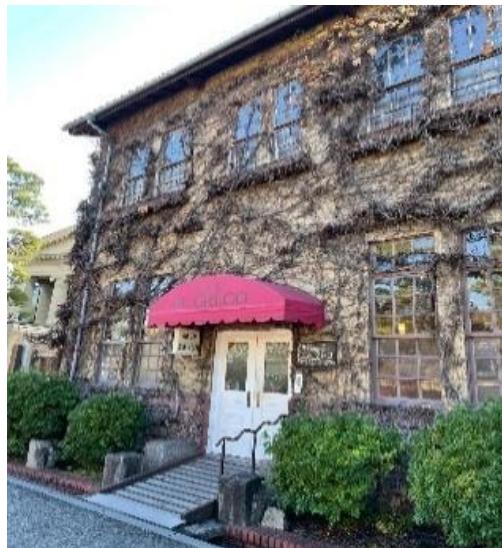
今から100年前の1925年に焦点を当て、その当時パリで活躍していた
ピカソ、藤田嗣治の作品を大原美術館所蔵品の中から紹介し、
同じ時期に大原美術館や現・児島虎次郎記念館（旧中国銀行倉敷本町出張所）
を設計した薬師寺主計のインテリア、家具など展示しています。

編集後記

12月の初旬、絶好のバスツアー日和に恵まれ、「ミュージアムへ行こう」の
メンバーに、副理事長、他の講座のCAさんなどを加え、和気藹々のバスツアー。
ほぼ予定通りのスケジュールで大原美術館や周辺の美観地区散策を楽しむことが
できました。

何十年かぶりに訪れる人も多かったと思います。今更ながら、およそ100年前に
西洋の絵画に魅了された若き画家が夢心地の情熱で作品収集に励んだ当時に思い
を馳せました。

美観地区は時代と共に古いものを上品に残しつつ、若い人も惹き付ける魅力的な
町に進化していました。



創業から60年を超える、アイビーで覆われた
喫茶店「エル・グレコ」

2班 広報担当